



創立 2011年6月17日
SAITAMA UKISHIRO
JAPAN

埼玉浮き城プロバスクラブ

2021,9,17 発行

No. 123

例会日 毎月第3金曜日 ホテル ガーデンパレス 熊谷市佐谷田 3248 TEL048-525-7777
事務局 〒360-0823 埼玉県熊谷市榎町 106 (幹事 岡安眞也方) TEL・FAX 048-521-3359
会長 根岸 友憲 副会長 木島 隆夫 幹事 岡安 眞也 情報委員長 椎橋 俊夫

第 124 回例会 (9 月 17 日) 新型コロナウイルス感染予防対策のため休会となりました。

第 123 回 (8 月 20 日) 通常例会

□幹事報告

幹事 岡安 眞也

7 月中旬、コロナ感染の 8 月急増を察知し、直ちに 8 月「暑気払い」を中止し、その上で、感染動向に注視してまいりました。

オリンピック・パラリンピック・夏休・お盆 等の影響かは兎も角、東京・埼玉は元より行田・熊谷にても、

今までに無い「感染爆発 (ステージ 4)」に至り、8 月例会中止とした通りです。

9 月、この爆発的蔓延はピークアウトしたものの、「安心・安全」な水準に至らずとの危機感の下、9 月例会中止としました。

会員の皆様、時下、当局指導事項を順守し、日々、安寧にあります様記念申し上げます。

会 長 ス ピ ー チ

会 長 根 岸 友 憲



会員の皆様には、日頃よりプロバスクラブの運営につきましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今回の例会ですが、此のところのデルタ株感染症等の社会情勢を考えると、8 月の例会に続き 9 月の例会も中止せざるもえなくなりました。会員のほとんどの方は 2 回のワクチン接種を受けていると思いますが、強力な感染力を誇るデルタ株の流行でありますので、皆様の健康を守るためにも苦渋の決断で中止することになりましたのをお詫び申し上げます、ご理解下さいますようお願い申し上げます。

また、皆様が楽しみにしておられました暑気払いも中止になりましたことも併せてご報告いたします。

8 月には東京の緊急事態宣言のなか、IOC 国際オリンピック組織委員会と日本政府の決断によりオリンピックが開催されました。世界 206 カ国のアスリートが集まり、熱戦が繰り広げられ、日本の選手団はメダルを過去最高の金メダル 27 個を始め、合計 58 個のメダルを獲得する活躍で久しぶりに明るい話題となりました。

しかしながらオリンピック終了後には今までにないデルタ株の拡大で医療がひっ迫状態になり、若い方の重傷者も多くなったにも拘わらず、入院できない状況になってしまいました。これらも専門家の間では予想していたとの事ですが、9 月に入ってから収束の兆しが見えてきません。日本政府は対応の遅れを批判されていますことは、皆様ご承知の通りです。政府はワクチンの接種率が上がれば収束すると再々言っているだけで、これ

といった対策が取れていない状態です。

現在は 9 月 12 日まで埼玉県全域に緊急事態宣言が発令中です。プロバスクラブもこのような状況の中、例会理事会をはじめ、今年度事業計画書にあるイベント等が予定通り実施できるか心配しております。

皆様のご意見を執行部にお寄せ頂き、対応していかねばと思っておりますので、会員の皆様、よろしくお願い致します。

今後 9 月末には総理の任期も切れ、その後衆議院議員の選挙が行われる予定です。日頃の話題には事欠かないと思っておりますので、次回の例会開催されることを期待して今しばらくお待ちくださいますようお願い申し上げます。

また今回 8 月 14 日の日本経済新聞の埼玉首都圏経済欄に「ものづくり大学・赤松学長に聞く」のインタビュー記事が大きく掲載されました。大学開校 20 周年記念にあたり、＜教養教育で起業家育成＞テーマでした。赤松学長は皆様ご存じのとおりプロバスクラブの会員であります。コロナ渦でもこのように活躍しているメンバーがいっぱいは励みになります。



会 員 投 稿



私の闘病記

安部 節子

プロバスクラブ会員の皆様、こんにちは！
私は思いもよらなかった脳出血を発症した為、約半年にわたり PC を欠席し療養生活を送っていました。今やっと根岸会長年度の初例会に出席することができました。この機会に闘病の一端を記させていただきます。

須郷会長年度の令和2年12月16日、私は東京信濃町にある大日本茶道学会本部教場において体調に異変を感じ、隣接する四谷クリニックを受診しました。MRIにより脳出血（右被殻出血）と診断され、東京通信病院に緊急入院することになりました。同病院において内科的治療を受け、左半身に軽度の麻痺・「ラ行」の発音が難しいなどの言語障害が少し残りましたが、医学的には順調な回復をしました。1月1日生まれの私はコロナ禍中ゆえに入院中は外部との接触は一切できず一人寂しく70歳古希の誕生日を病院で迎えました。

令和3年1月8日に退院し、以後自宅療養を続けていましたが、退院後の私は血圧が不安定で体調不良が続き、テレビ、新聞等一切見る気が起きず、同居の家族と近くに住む次女一家とのみ会話をするような生活を送っていました。また、気力の低下が甚だしく、それでいて神経だけは昂り、研ぎ澄まされているような状態が続きました。人に会いたくない、はなし声やテレビの声が神経に触り、食欲不振や不眠状態ともなっていました。お見舞いも一切断り、種々の連絡はもっぱらスマホとパソコンのメールで行っていました。

日中、一人でいることが多く、脳出血の再発のことをしつつ考えてしまい、外出をためらうようにもなっていました。

5月の連休中に PC の事務を急遽、木島隆夫副会長（当時）へ引き継ぎ、ご迷惑をおかけしましたが、一時は仕事ロスの気分になりますます落ち込んでしまった時もありました。

5月20日には家で作業中、約20秒～30秒間、左目が突然見えなくなり、通信病院に再度検査入院することになりました。

病名：一過性脳虚血発作の疑い、症状：一過性黒内障検査入院中、MRI・頸動脈・心電図・視野・眼底検査・聴覚等の検査を受けました。

検査の結果、特に悪いところは見つからず、水分はこまめにとること、長湯は避けることなどの一般的注意を受け、退院となりました。

入院中、脳出血と脳梗塞（一過性脳虚血発作は脳梗塞の前触れともいわれている。）という二つの爆弾を

脳に抱えているようで不安感はとても強く、ほかにもいろいろなことに不安が募りました。

6月3日に退院、その後は地元のかかりつけ医に紹介状を書くので、以後そちらの病院に通院するよう指示を受けました。「どこも悪いところは見つからない。」との主治医の先生の言葉から、安心したのか精神的には落ち着き、他人との会話も徐々にできるようになった次第です。PCにも出席しようかと思いはじめたのもこのころからでした。

PCの諸先輩からは多くのショートメールや励ましのお手紙、絵手紙クラブの皆さんからは機知にとんだ絵手紙等ほんとに多くの仲間から励まされました。

人との何気ない会話や関りによって元気になれること、これを「人薬」と言うそうです。まさに PC の諸先輩からは「人薬」をいただき、多大なご迷惑をおかけしたにも関わらず、気力を取り戻すことができ、それに伴い徐々に体力も回復してきたところです。多くの方々に支えられ、励まされて、今まさに回復途上にあります。

全快には程遠い状態ですが、心と体の状態を見ながら気長に療養に努め、PCにも出席させていただきたいと思っています。これからもよろしくお願い致します。

闘病中の愚作を記します。

救われし命の重み古希の春



入院中の寂しい一人おせち

入院中のお正月の昼食です。
一人寂しく祝いました。



大好きな一曲

大澤 由子

五歳の頃より始めた日本舞踊ですが、好きでした。でも舞踊の道に携わる様になるとは思ってもおりませんでした。

師からは、踊りの為に生まれて来た様だと、過分な言葉をいただきましたが、期待に添える活躍が出来たか、疑問です。

若い頃は「連獅子」の様な古典の大曲を、好んで踊っておりましたが、中年になり西川流の代表として、新聞社主催の各流合同舞踊会等出演させていただき、毎年レギュラーとして、国立劇場や歌舞伎座等の檜舞台に立たせていただく様になり、新作物、古典等数多くの舞台を踏ませていただきました。

今特に大切に思っている曲は、新作(昭和になって作詞、作曲、作舞をした物)では「雨の四季」、これは江戸の雨の風物を四季に分けて詠い込んだ曲です。

古典では「時雨西行」が特に好きです。この曲は謡曲「江口」を題材にした、河竹黙阿弥作詞の物で、歌人としても有名な西行法師が、仏道修行の折、江口の里(大阪淀川)で時雨に会い一夜の宿を乞うた時のエピソードです。

江口の里の遊女のあるじは、西行のたのみを断ります。その時西行は「世の中を厭うまでこそ難から

め仮の宿りを惜しむ君かな」と、立ち去りかける西行を呼びとめ、あるじの遊女は、返歌として「世を厭う人とし聞かば仮の宿に心留むなと思うばかりに」と答え雨やどりとなります。

互いに身の上話を語るうち、西行は昔は弓取りで、帝に仕える北面の武士でしたが、世を憂い黒染めの衣をまとひ法(仏法)の旅に出たと語り。また遊女は父母さえも知らず、はかない流れの身迷い多き身ですと、説き語る内、西行が合掌して眼を閉じると遊女は、普賢菩薩に見え、眼を開ければ遊女に見えると言う事です。西行法師が、生身の菩薩を拝むという、人の姿を借り菩薩に出会ったという、江口の里の雨宿りを題材にした名曲です。仏道を生きる西行には、遊女が現世を生きる菩薩に写ったのかもしれない。

これは遊女と普賢菩薩との踊り分けが見所であり、極めて難曲の一つで、心の踊りと言われてをります。西行、遊女役共に遣りがいのある曲で、何度も両方の役をやらせていただきました。特に数年前行田に師である人間国宝の宗家、西川扇藏師をお迎えし西行法師をやっていたいただき、江口の君をやらせていただきましたのが唯一思い出の舞台です。

句会に入れていただいて、私の句は踊りに関する句が多くなりますが、踊りばかにならず他に目を向ける事が出来る様になりました。今文化芸術活動は思うにまかせない社会情勢の中明るい未来を求めて、遠慮なく活動出来る俳句に出会えた事は本当に仕合わせな事と思います。



国立劇場にて 松迺羽衣



国立劇場にて 松迺羽衣



国立劇場にて 雨の四季



産業文化会館にて 時雨西行



俳句

石塚喜助

かき氷美味しく食べて五輪見る
居酒屋の店主の泣き言夏の夜
朝顔の花咲く川辺散歩かな

鴨川で京都五山の送り火よ
盆過ぎてなぜか淋しい夕べかな
長崎で老婆の誓い原爆忌
散歩道残暑きびしく出穂うれし
庭で鳴くツクツクホウシ秋近し



「コロナは災害である」
「次の総理は誰だ」

小島敏男

原稿依頼を受けて何を書こうかと思いついてはいたが、どうも思考回路があちこちでショートしているらしい。何が原因かと考えてみたが、やはり2年にも及ぶコロナ騒動のようだ。高年齢のせいにもしたくなるが、今までの生活様式が一変されてしまったことにもある。「マスク」「手洗い」「出掛けるな」こんな窮屈な生活を長期間強いられることはかつてないことだ。物が満ち溢れ便利さもこれまでかと思わせる時に、明日への希望を夢見ていた国民に、あまりにも厳しい試練がこんな形で待ち受けているとは・・・。

新型コロナ対策分科会の尾身会長はじめ医師団から、とうとう「コロナは災害である」の一言が飛び出した。その後菅総理も小池都知事も頻繁に使うようになった。辞書で「災害」を調べてみると、「火災や事故あるいは暴風雨や地震といった天災等、予測が出来ないような災い」とある。今地球上では、予測不可能なことが起き続けている。

一何故だろうー

念願だったオリンピックもパラリンピックも1年延期して実施され、国民に多くの感動と勇気を与え無事閉幕した。努力すれば報われることを、世界中から集まったアスリートの皆さんがテレビを通じて目の前で示してくれた。

ここから環境問題とエネルギー問題に話を進める予定だったが、突然の政変によって今後の政治のあり方等にスイッチを切り替えてしまった。

9月3日菅総理の総裁選不出馬表明により退陣が決定、国政は大波乱に突入した。私は菅総理と同期なので人柄をよく知っているつもりだ。私の親友山口泰明さんとは特に仲が良く、ご子息の仲人をした間柄でもある。苦労人で全く目立たない人で、同期

生では総理には一番遠い存在だったような気がする。その為安倍総理の後継者として指名された時、私は家族や周囲の人たちに絶対に引き受けないと言ってきた一人だった。自民党又日本の為という殺し文句に猛反対していた奥方も、説得されてしまったのが現実のようではないか？「令和のおじさん」の時が最高だった。元来が真面目な性格なので、この1年も不眠不休で懸命に取り組んできたことも事実だ。

酒も全く飲めず、ただコツコツとやってきたわけだが、不運にも世界中を止めてしまうようなコロナと出会ってしまった。刻々と変化するコロナ株に対応が追いつかず、先進諸国のように「ロックダウン」という手法も取れず、「蔓延防止」「緊急事態宣言」の繰り返いで経済と医療の両立を計ろうとしたことも裏目に出て国民の不信を買う結果となった。「菅総理のもとでは選挙は戦えない」とあつという間に周囲の人が離れていってしまった。

権力者の末路は寂しい一言だが、小泉環境大臣のように涙ながらに記者会見した人もいた。総裁候補が次々と名乗りを挙げてきており、今後どのように推移してゆくのか見当もつかない。野党も誰が総理になるのか、強気の発言をしているが心中穏やかではないはずだ。どのような形であれ、自民党は最終的には纏まることを過去の例からよく知っているから・・・。安定か、世代交代か、初の女性総理か？いずれにしてもコロナ対策、外交、内政等将来の我が国のあり方を国民の前に明らかにしていただきたい。

万策尽きた菅ちゃん（私達は彼のことをこう呼んでいる）1年間ご苦労様でした。ゆっくりと休息をとってください。

